

1.川崎町社会福祉協議会【防災・ふくし教育プログラム】

「いのちとくらしを守る学習プログラム」

町内の学校や地域で実践できる防災・ふくし教育プログラムを紹介します！！

①防災ピンゴゲーム（日頃の備え） 所要時間 45分～60分

災害時に何が必要か、3.11の経験から現在どのようなものを家庭で備えているか、今後どのようなものを備えたらよいかを考え、自分の家庭ではどのような準備が必要かを考えてもらうことを目的に、ゲームを通じて皆さんと一緒に学んでいきます。



②非常持ち出し袋の中身はどんなもの？ 所要時間 30分



非常持ち出し袋の中身はどんな物が入っているのか？社会福祉協議会では、一人暮らし高齢者の方を対象に「非常持ち出し袋」を配布しています。災害時に備えてどんな物を入れておくといいかをクイズなどを出し、皆さんに防災の知識を身に付けてもらいます。

③非常食試食体験 所要時間 30分～60分

その名の通り、実際に非常食を試食していただきます。非常食に関するクイズなどを出しながら、非常食についての知識を深めていただきます。



④KYT（危険予知トレーニング） 所要時間 45分～90分

身近な場所の写真をもとに、隠れている「危険」があり、その危険が事故につながらないように、危険予知・回避する力を育み、事故防止につなげていくことを目的としてグループワークにて学んでいきます。



⑤避難所体験 所要時間 60分～90分

災害発生時、避難所に避難する事が想定されますが、避難所には必要最低限な物しかなく、長期化する事によって避難所での生活が大変になっていきます。避難所では、皆で協力しあい、いかに快適に生活が出来るかを一緒に考えながら体験を通し、学んでいきます。



【避難所にベッドを作ろう】

段ボールを組み合わせる事により、簡易的ですが横になってもつぶれない強度を保つベッドを作ることができます。ついたり目隠しなどその場所や状況に対応できるのも段ボールベッドの強みです。

避難所などでも実際に活用されております。

【ちょっとした工夫で出来るアイデアグッズ】

新聞紙を使って、簡易的なスリッパを作る事ができます。

新聞紙2枚あれば、1セット作成する事ができます。

その他、マスクやコップなど災害時に活用できる道具を、ちょっとした工夫で作る事ができる方法を学ぶ事ができます。



マスク



お皿



スリッパ



コップ

⑥防災クッキング 所要時間 60分～90分

災害時には、あらゆるものが貴重となり、特に水に関しては断水となる事が多くあります。一つの鍋で、たくさんの料理を作る事ができる防災クッキングは、断水時や水不足等で節水が必要な時、大いに役立ちます。

災害時の調理方法として学ぶ事ができます。



⑦サバメシ作り 所要時間 60分～90分

限られた食材や調理方法で簡単に作る事ができる料理をサバイバルめしと言います。アウトドアでも活用されています。限られた食品の中から自分で組み合わせを考えて作るため、判断力や実行力を養う事ができ、災害時の知識を学ぶ事ができます。



⑧防災福祉マップづくり 所要時間 60分～90分

災害時において、地域の中に要支援者や要援護者などの福祉課題がある方への声かけや避難誘導についてどのように行動すべきかをマップを作成しながら学んでいきます。自分の地域でどこが危険か、避難所までの安全ルートの確認など地域を理解し、自分たちに出来ることや地域での気づきを促すことを目的にグループワークをしながら一緒に学んでいきます。



⑨バーチャルマップ作り 所要時間 90分～120分



仮想の街を想定し地図化したものに、グループ内で地域の住人になり役割を決めます。そこに災害が次々と起きた時、どのように対応していくのか、グループワークを行いながら一緒に学んでいきます。

PowerPoint を活用しながら進めていきます。

⑩災害についての説明 所要時間 30分～60分



災害とは何か、どんな災害があって、その原因は何か？など、災害を起こす天気の話や災害の種類、災害に伴う避難情報の確認などを、クイズを交えながら詳しく説明します。

⑪被災体験話 所要時間 60分くらい

東日本大震災で被災、避難した事例を PowerPoint で写真を見てもらいながら話します。災害の怖さなどを改めて確認してもらう講話です。



その他、組み合わせやアレンジもできますので、ご相談いただければと思います。